

新小牧市立図書館建設設計業務委託プロポーザル実施結果

新小牧市立図書館建設設計業務委託プロポーザル審査委員会（以下「審査委員会」という。）による審査の結果、技術的に最適な者として、株式会社新居千秋都市建築設計を選定した。

1. 審査結果

区分	参加者名
技術的に最適な者	株式会社新居千秋都市建築設計
次点者	株式会社佐藤総合計画 中部事務所

2. 審査日程

区分	項目	日程
第一次 審査	実施要領等発表	平成 29 年 7 月 5 日
	参加表明書等の交付	平成 29 年 7 月 5 日から
	質疑受付	平成 29 年 7 月 5 日から 19 日まで
	質疑回答	平成 29 年 7 月 24 日
	参加表明書等の提出期限	平成 29 年 8 月 14 日
	第一次審査	平成 29 年 8 月 24 日
	結果発表(通知)	平成 29 年 8 月 25 日
第二次 審査	プレゼンテーション及びヒアリング・第二次審査	平成 29 年 9 月 4 日
	結果発表(公表・通知)	平成 29 年 9 月上旬

3. 審査委員会

区分	職名	氏名
委員長	中部大学工学部建築学科 教授	内藤 和彦
委員	名城大学理工学部建築学科 准教授	生田 京子
委員	小牧市立図書館協議会 会長	唐松 健夫
委員	(特非) こまき市民活動ネットワーク代表理事	秦野 利基

委員	都市建設部長（都市整備担当）	渡辺 学
委員	教育部長	大野 成尚
委員	図書館長	山田 久

4. 評価基準

区分	評価項目	評価事項	配点(点)	
			一次	二次
第一次 審査	1 設計事務所の能力	技術者数、主要業務実績数	2	—
	2 総括責任者の能力	資格・経験、主要業務実績数	3	—
	3 主任技術者の能力	資格・経験、業務実績	5	—
	4 業務実施方針等	建物内の施設配置・内装空間の考え方	45	45
		外観の考え方	15	15
		敷地利用の考え方	15	15
		図書館周辺施設との連携・調和の考え方	15	15
第二次 審査	5 取組意欲等	業務の理解度と取組意欲	—	5
		設計チームの業務取組方針	—	5
合計			100	100

5. 審査の経緯

(1) 第一次審査

平成29年8月24日に開催した第2回審査委員会において、参加表明書等の提出があった7者について、評価基準に基づく参加表明書等の審査を行い、第二次審査への出席を要請する5者を選定した。

第二次審査出席要請者（五十音順）

出席要請者名
株式会社新居千秋都市建築設計
株式会社アール・アイ・エー 名古屋支社

株式会社佐藤総合計画 中部事務所
株式会社寺田大塚小林計画同人
株式会社三上建築事務所

(2) 第二次審査

平成29年9月4日に開催した第3回審査委員会において、第二次審査出席要請者による提案内容等についてのプレゼンテーション及び委員によるヒアリングを公開で行った。

審査委員会では、その内容に対する評価と取組意欲等に対する評価を合わせた結果を踏まえて審査を行い、技術的に最適な者及び次点者各1者を選定した。

6. 各者に対する講評及び総評

(1) 講評

○技術的に最適な者

「新小牧市立図書館の建設方針」の主旨をよく理解し、小牧市の課題の一つでもある「小牧駅・駅前広場・図書館・歩道・ラピオにいたる一連の空間」の有効利用もよく検討されている提案であった。また、要求された図書館機能は満足させた上で「市民からの寄贈図書の有効活用を図り、市民参画を促す空間の提案」や「市民活動支援の空間設定」「小牧山をイメージした緑溢れる外観の提案」など、市民にとっては夢が描きやすく、足を運びたくなるような提案が随所に盛り込まれている。

これらについては、今後実現に向けて、より具体的に検討されることとなろうが、市民の要望に十分応えてくれるだけの力量と余力を感じさせる内容となっている。また、コスト削減についての意識も高いことも含め、今後、本市の目指す新図書館の実現に向けた設計成果が期待できる柔軟性のある内容と判断し、技術的に最適な者として選定した。

○次点者

図書館機能については、十分な検討がなされており、また「建物の真ん中に屋上まで突き抜けた中庭を設け、ここにシンボル

ツリーを配し、各階ブラウジングスペースから眺められるような空間構成」や「本やモノを自由に展示できる棚の配備による、使い心地のよい閲覧・読書空間の提案」「小牧山城の石垣と本をモチーフにした外観」など、これらの提案内容は一定の評価を受けたが、総合的な評価としては一歩及ばず、次点者として選定した。

(以下、受付順)

○ 1 番

各階ごとに魅力的な空間を創られていることやワンフロアを広くとり階層を低く抑えたことについて一定の評価を受けたが、各階の繋がりが弱いことや各機能の配置の考え方が低い評価となり、選定には至らなかった。

○ 6 番

本図書館建設の主旨が良く理解されており、市民の活動と本を結び付けようとする積極的な姿勢や環境重視のデザインについて一定の評価を受けたが、建築空間の提案に具体性が弱く、小牧の顔としての外観の考え方が低い評価となり、選定には至らなかった。

○ 7 番

図書館周辺施設との連携・調和の考え方や駐車場のコスト面や構造面の考え方について一定の評価を受けたが、空間的に融合していない点や各機能の配置の考え方が低い評価となり、選定には至らなかった。

(2) 総評

新小牧市立図書館の建設にあたり「みんなの情報と交流のひろば」という基本理念のもと、市が平成29年6月に策定した「新小牧市立図書館の建設方針」に従って事業を進めるために、本プロポーザルは、柔軟かつ高度な発想力や設計能力及び豊富な経験を有する設計者を選定する目的で、公募形式で実施された。

新小牧市立図書館の建設方針は、新小牧市立図書館建設審議会からの答申内容をもとに、現在の小牧市にとってふさわしい図書館を、という視点から、あらためて検討を行い、設計業務に反映させるべく策定されたものであり、本プロポーザルを行うに当たり、建設方針に記載された6つの新図書館建設の基本方針や7つの建築計画の方針を踏まえた提案を求めた。

各参加者からは、基本的な図書館サービスをおこなえる各種機能を確保しつつも、各々独創的や先進的かつ実現性の高い提案を多くいただくことができた。

審査委員会では、これらの提案に対し、評価基準に基づいた、第一次審査、第二次審査を実施し、前記各者に対する講評のとおり選定した。

今後、技術的に最適な者として選定した「株式会社新居千秋都市建築設計」には、市が目指す新図書館の実現に向けて設計業務を行っていただきたい。また、市においては、市民の意向を確認しつつ、学識経験者や小牧市立図書館協議会委員で構成される（仮称）新小牧市立図書館建設検討会議に建設の進捗状況を報告するとともに、必要に応じて助言を求め、設計者との連携を図りつつ、本事業を推進していかれるよう望んでいる。

最後に、将来にわたって小牧市民が誇れるような新図書館が完成し、市民の皆様に愛される図書館となることを委員一同期待している。

（審査委員会委員長 内藤 和彦）